

最期まで住み続けられる健幸長寿まちづくりを支える地域公共交通プロジェクト

応募様式A

杵築健幸まちづくりプラットフォーム

事業の基礎情報

実施主体	杵築市
事業実施地域	杵築市（中心市街地、及び梶ヶ浜地区）
共創の類型	官民共創 ・ 交通事業者間共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉 ・ 子ども・子育て ・ 教育・スポーツ・文化 ・ 商業・農業 ・ 宅配・物流 エネルギー・環境 ・ 地域・移住 ・ 金融・保険 ・ 観光・まちづくり ・ その他（該当する類型がない場合に記載）
共創パートナー	三光タクシー、杵築国東合同タクシー、大和ハウス工業、杵築市商工会、杵築市社会福祉協議会、杵築市立山香病院、筑波大学スマートウエルネスシティ政策開発研究センター
運行形態	①実証事業として運行する交通モード：A I オンデマンド交通 ②自動車運送である場合は、道路運送法の許可区分：許可・登録を要しない
運行主体	三光タクシー、杵築国東合同タクシー

現状・課題

（地域交通の現状・課題に関する分析）

- 本市は、大分県の北東部、国東半島の南部に位置し、人口約2.65万人（R6.3月末）、高齢化率は約39.12%である。
- 本市は、**健幸長寿のまちづくりを重要な施策と位置付け**ており、その一環として、地域公共交通の強化が喫緊の課題になっている。
- 市内公共交通は、大分交通と国東観光バスが運行する路線バスのほか、市が運行するコミュニティバス・乗合タクシーがある。しかし、収支率は、コミュニティバスが約7%、乗合タクシーは約12%と経営状況は極めて厳しい。
- 市内の梶ヶ浜地区（**208世帯、人口376人、高齢化率73.7%**）には、大和ハウスが運営する**ロイヤルシティ別府湾杵築リゾート**があり関西地方を中心に第2の人生として住宅を購入し暮らしているが、**中心街は7km離れて**おり、移動手段のほとんどが自家用車に依存している。コミュニティバス（平日、往復合計で2本/日）を運行しているものの、自宅からバス停留所までが遠いため利用者も低い。そのため、**免許返納や、一人暮らし世帯、要介護高齢者になると生活がしづらく、都市圏に戻る世帯も多く、公共交通問題が定住化の阻害要因**となっている。

地域公共交通計画への位置づけ（位置づけ予定を含む）

有

運輸局・運輸支局への事前相談

大分運輸支局

令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無

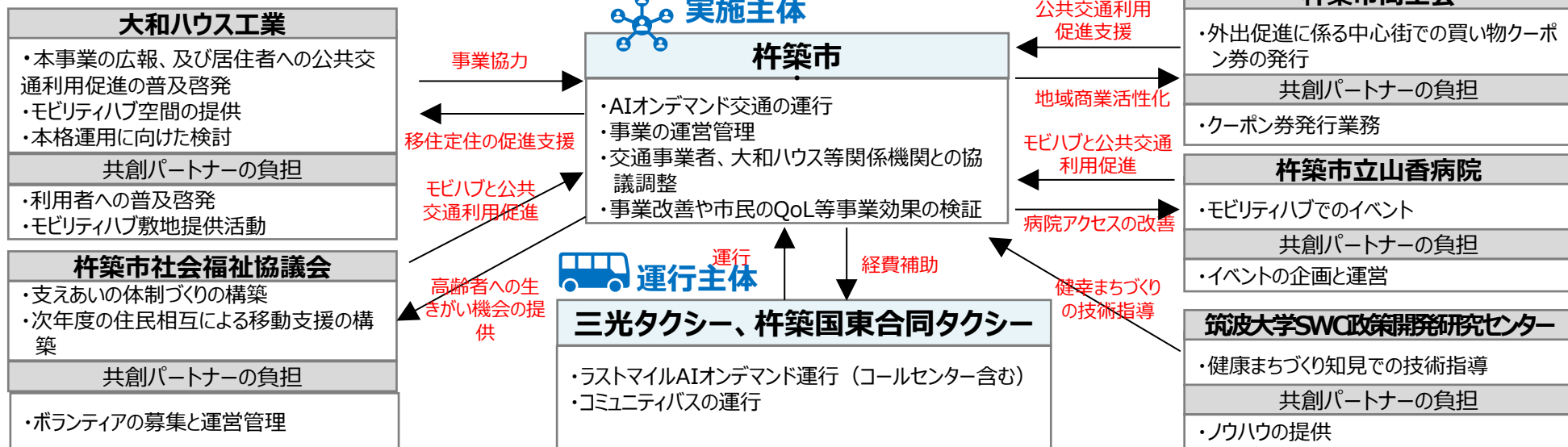
無

最期まで住み続けられる健幸長寿まちづくりを支える地域公共交通プロジェクト

応募様式A

杵築健幸まちづくりプラットフォーム

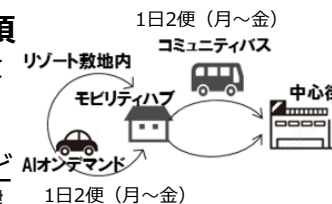
事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

(事業の概要)

- ・高齢になっても住み続けられるまちづくりを推進するため、勾配が多い、梶ヶ浜地区では自宅からバス停を結ぶ**ラストマイル交通が必須**となる。そのため、敷地内は**ラストマイル専用のAIオンデマンド交通**を導入し、モビリティハブで乗り継ぎ、コミュニティバスの利用増加を図る。
- ・当市は、健康長寿のまちづくりを進めているため、本事業は、**健康増進プログラムとセットで進める**。具体的には、地域ボランティアを対象に**健幸アンバサダー（健康情報を学び・伝える伝道師）**を養成し、**公共交通の利用促進に係る意識啓発**も行うとともに、モビリティハブで健康イベントを開催し、**乗継時間の有効活用を促す**。また、公共交通利用の意識啓発資料とするため、本施策による**健康効果の調査**も実施する。



(地域の関係者との連携・協働)

- ・**大和ハウス工業**には、居住者への意識啓発やモビリティハブの運営を依頼。また、本格運用に向けた資金提供の可能性を検討。**社会福祉協議会**には地域の支えあいの体制づくりの構築。**商工会**は中心街でのクーポン事業を実施。**山香病院**は健康アンバサダーとともに、モビリティハブでの健康イベントを実施。**筑波大学**には、健康まちづくりの視点で公共交通利用促進に資するアドバイスを依頼。

(地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性)

- ・令和6年1月に策定した**杵築市地域公共交通計画**において、AIオンデマンド交通の導入は提案。交通事業者の賛同も得ている。

杵築健康まちづくりプラットフォーム

[illegible]

最期まで住み続けられる健幸長寿まちづくりを支える地域公共交通プロジェクト

応募様式A

杵築健幸まちづくりプラットフォーム

取組の詳細

（地域交通にもたらされると想定される効果）

- ロイヤルリゾートエリアのラストマイル交通導入によるコミュニティバス（東線）の利用者増加（梶ヶ浜停留所12月～1月 179人→197人 10%向上）
- 高齢者のロイヤルリゾートから中心市街地へのアクセス時間との短縮効果（1人あたり平均15分の時間短縮）
- ロイヤルリゾートの高齢者の外出率向上（10%アップ）
- 公共交通利用者のフレイル兆候の改善（改善率20%）
- 身体活動量の増加（+1500歩/日）

（地域全体に及ぶと想定される効果）

- ロイヤルリゾートの高齢者の都市圏流出率の減（将来数値目標5%減）
- 外出促進による地域の要介護認定率の維持（現行7.2%を維持）

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

☐	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上		貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
☐	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備	☐	通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

（補助事業実施後の予定）

- ロイヤルリゾート内のラストマイル交通を住民互助による移動支援サービスとして実施する。
（R7）運行体制の確保（ドライバー、運行管理）、運営費の確保（介護予防事業訪問型サービスD）（R8）AIオンデマンド機器を導入した交通運行の実施
- 乗り合いタクシーのAIオンデマンド導入を実施する。
（R7）高齢者を対象としたスマホ教室（R8）AIオンデマンド導入
- ウォーキングやイベント参加、健診受診、公共交通利用等に対してポイントを付与する事業の実施。

資金面	介護保険事業における介護予防事業訪問型サービスDによる運営費の一部補助 AIオンデマンド交通、ポイント制度についてはデジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）
人材面（運転手の確保）	・ラストマイル運行についての実施主体は自治会のボランティアで構成